

平成23年度「重点研究費」研究成果報告書

申請区分	B	配分額	620,000 円
研究課題	プロジェクト型カリキュラム開発のための教師の能力形成に関する比較教育史的研究		

研究代表者

氏名	橋本 美保	所属	教育学部 教育学講座	職名	教授
----	-------	----	------------	----	----

研究分担者

氏名	遠座 知恵	所属	教育学講座	職名	講師
	北詰 裕子		教育学講座		講師
	田中 優美	東京学芸大学連合大学院	教育構造論講座		大学院生
	田中 智志	東京大学大学院	教育学研究科		教授

【研究成果の概要】 (文字の大きさ9ポイント・字数800字～1600字)

本研究では、教師がプロジェクト型カリキュラムの開発に関わるようになった契機や、カリキュラム・デザイン能力の獲得プロセスを実証的に解明し、日本・アメリカ・フランス間における比較教育史的な考察からそれぞれの特徴を分析し、能力形成のための条件について考察することを課題とした。各研究者は、近代以降現代に至るまでの、日本・アメリカ・フランスの教師、あるいは実践的志向の強い研究者やプロジェクト型カリキュラムを開発・実践している学校をとりあげ、そこにおける教師の能力形成過程について以下のような調査・研究を実施した。

橋本と田中智志は、2004年の開校以来「プロジェクト」の時間を設けてプロジェクト型カリキュラムの開発および実践を行っている山梨学院大学附属小学校におけるプロジェクト学習の開発実態、およびその研究実践態勢をマネジメントする学校経営に関する調査を実施した。調査の方法は、授業実践の観察および実践者(教員)および学校経営側(教頭・校長)へのインタビューであり、それによりカリキュラムの開発体制および実践原理、PDSサイクル(計画、実践、評価)の実態、および教師の能力開発のための学校経営態勢の条件などを解明することを目指した。さらに、同校のような現代的な実践事例のなかに見られるプロジェクト活動の特徴について、現代フィンランドにおける「手工」を中心とするプロジェクト型カリキュラム、大正新教育期における明石女子師範学校附属小学校および池袋児童の村におけるプロジェクト活動の実践、シカゴ大学実験学校(デューイ・スクール)のオキュペーションなどに見られるプロジェクト活動との比較史的検討を行い、それらに共通する実践原理の共通性とそこに必要な教師の能力の特徴を明らかにした。なお、この研究の成果の一部は2012年2月に刊行した共著において発表した。

また、遠座は、20世紀初頭にアメリカで盛んに開発されたプロジェクト・メソッドの理論的実践的系譜の解明と、その日本への受容過程について調査を進めた。アメリカにおいては、プロジェクト研究の拠点であったコロンビア大学ティーチャーズ・カレッジの教授ボンサー

(F.G. Bonser)による産業科を中心としたプロジェクト型のカリキュラム開発に注目し、それが彼の初等普通教育のカリキュラム思想に基づくものであったことを明らかにした。また日本におけるプロジェクト・メソッド導入の主要な窓口となった東京帝国大学教育学講座の研究活動について、その中心人物入澤宗寿に注目して、彼の情報収集活動と受容の特徴を解明した。

田中優美は、近代日本において幼児教育カリキュラムが開発される過程におけるアメリカ進歩主義教育の影響に注目し、その幼児教育情報をもたらしたアメリカ人教師(宣教師)とそれを受容したキリスト教系女学校におけるカリキュラム開発過程について調査した。特に、広島女学校の事例についてその史料調査を実施し、幼稚園カリキュラム開発のための保育者の能力形成がどのように考えられていたのかを考察した。

同時に、北詰と橋本、田中智志はフランスにおけるプロジェクト型カリキュラムの系譜および実践的特質に関する先行研究の調査を行った。

#### 研究成果発表方法

- ・ 田中智志・橋本美保『プロジェクト活動—知と生を結ぶ学び』東京大学出版会、2012年2月。
- ・ 橋本美保「及川平治—教職の覚醒を引き起こした大正新教育運動の指導者」沖田行司編『人物で見る日本の教育』ミネルヴァ書房、2012年4月、205～212頁。
- ・ 遠座知恵「入澤宗寿によるプロジェクト・メソッドの受容—情報収集の実態と特質」『東京学芸大学紀要』総合教育科学系I、第63集、2012年2月、21～32頁。
- ・ 田中智志「プロジェクト活動と知—表象知と生の経験」『東京大学大学院教育学研究科基礎教育学コース研究室紀要』第37号、2011年6月、1～10頁。
- ・ 橋本美保「フィンランドにおけるプロジェクト活動としての「手工」—その教育史的特質と実践原理」『日本カリキュラム学会第22回大会発表要旨集録』2011年7月、189～190頁。
- ・ 遠座知恵「進歩主義教育におけるインダストリアル・アーツの編成原理—F.Gボンサーによるカリキュラム開発の特質とその日本の変容に注目して」『日本カリキュラム学会第22回大会発表要旨集録』2011年7月、143～144頁。
- ・ 遠座知恵「F.G.ボンサーによる初等教育カリキュラムの開発過程—インダストリアル・アーツの性格とプロジェクトの系譜」『教育史学会第55回発表要項集録』2011年10月、92～93頁。
- ・ 田中優美「1900年代アメリカにおける幼稚園教員養成の実情—国際幼稚園連盟（IKU）による養成カリキュラムの標準化」『日本カリキュラム学会第22回大会発表要旨集録』2011年7月、131～132頁。